



## 2025年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年7月12日

上場会社名 株式会社ドール・日レスホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3087 URL <https://www.dnh.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星野 正則

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 天間 靖之

TEL 03-5459-9178

四半期報告書提出予定日 2024年7月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年2月期第1四半期の連結業績(2024年3月1日～2024年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	36,906	4.9	2,981	37.6	3,100	37.5	2,379	18.1
2024年2月期第1四半期	35,176	15.2	2,166	122.8	2,255	86.5	2,014	57.1

(注) 包括利益 2025年2月期第1四半期 2,399百万円 (17.0%) 2024年2月期第1四半期 2,051百万円 (89.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第1四半期	54.30	
2024年2月期第1四半期	45.57	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第1四半期	130,804	100,990	77.0
2024年2月期	127,788	99,474	77.6

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 100,669百万円 2024年2月期 99,155百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期		20.00		20.00	40.00
2025年2月期					
2025年2月期(予想)		23.00		23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	73,542	3.6	5,047	24.3	5,125	19.7	3,650	0.4	83.01
通期	146,484	4.2	9,679	32.2	9,848	27.9	6,646	21.0	151.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期1Q	45,609,761 株	2024年2月期	45,609,761 株
期末自己株式数	2025年2月期1Q	1,791,497 株	2024年2月期	1,791,447 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年2月期1Q	43,818,291 株	2024年2月期1Q	44,219,120 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信[添付資料]3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2024年3月1日～同年5月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響がなくなり、人流が活発化するとともに、多くの企業で賃上げが行われるなど所得環境の改善が進んだことから、経済環境は堅調な推移となりました。一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やガザでの紛争など国際的なさまざまな要因から、エネルギーや穀物をはじめとしたコモディティの値上がりが目著しくなり、円安の進行も相まって物価が大きく上昇するなど、先行きの不透明感が増しております。

外食業界におきましても、新型コロナウイルスの影響は収まったものの、在宅勤務の増加など、コロナ前の生活習慣がもとに戻ることはなく、完全な回復と言えるまでの状況には至っておりません。また、原材料をはじめ光熱費や物流費、さらに人手不足に伴う人件費の増加など、さまざまなコストの上昇が見込まれ、円安の進行による下振れリスクも顕在化しつつあり、非常に厳しい経営環境が継続し、予断を許さない状況となっております。

このような状況のもとで、当社グループは、「外食業界におけるエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で19店舗(直営店14店舗、加盟店5店舗)を新規出店しました。

既存事業においては、店舗における新商品の導入をはじめ、テイクアウトメニューや売店商品の拡充、卸売事業の拡大など、コロナ禍に取組んだ活動を継続するとともに新規出店を強化いたしました。また、一部業態におけるグランドメニューの改定やキャッシュレス・キャンペーンを開催するなど客数・売上の回復に向けた取組を強化しております。さらに、物流や購買の見直しを図り、業務の効率化を推進するとともに、徹底した管理コストの削減など、事業基盤の強化に努めました。その結果、客数においては、コロナ前の経営数値への改善には至っていないものの、売上高は顧客単価の上昇に伴い改善傾向がハッキリし、コロナ前を超える水準にまで回復しております。

以上の結果、第1四半期連結累計期間における業績は、売上高369億6百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益29億81百万円(前年同期比37.6%増)、経常利益31億円(前年同期比37.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益23億79百万円(前年同期比18.1%増)となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

#### (日本レストランシステムグループ)

日本レストランシステムグループでは、経済活動の正常化により売上高は着実に回復してきましたが、物価高騰や円安の影響、並びに人件費の高騰と厳しい経営環境は引き続き継続しております。

新規出店につきましては、「星乃珈琲店」や「洋麺屋五右衛門」等の主力ブランドを中心に7店舗を出店するなど店舗網の拡大に努めました。また、顧客ニーズの変化に合せた既存ブランドのブラッシュアップとして「牛たん焼き仙台辺見」「洋麺屋五右衛門」等へ6店舗の業態変更を実施しております。なお、「星乃珈琲店」の店舗数は、2024年5月末時点で国内においては279店舗となり、うち加盟店は36店舗となりました。

商品戦略につきましては、季節に合わせたメニュー開発の強化に努めることでお客様にご満足頂ける商品を提供しております。また、共通食材を使用することで多ブランド展開の強みを生かした商品開発を実施し、徹底した原価管理を行っております。

以上の結果、日本レストランシステムグループにおける売上高は134億72百万円(前年同期比7.7%増)、セグメント利益は13億50百万円(前年同期比79.3%増)となりました。

(ドトールコーヒーグループ)

ドトールコーヒーグループの小売事業及びフランチャイズ事業は、新型コロナウイルスの影響はなくなり、人流が回復したことで、ビジネス街や駅前立地を中心に売上高は上昇傾向が鮮明となりました。定期的なメニュー改定など力を入れてきたモーニングの時間帯も客数が回復しつつあり、ランチやティータイムの改善も継続していることが、売上の回復に繋がっております。

小売事業においては、引続き季節ごとの商品など付加価値の高いメニューを随時導入し、顧客単価を上げることで売上の回復に努めました。また、客数の回復を目指したキャッシュレス・キャンペーン施策を継続することにより、新規顧客の獲得やリピーターの確保に努めました。一方で、原材料をはじめとしたコストアップに対し、昨年来取り組んでいる維持管理コストの削減を継続実施することで、着実に利益を積み上げる体制を整えております。

卸売事業においては、コンビニやスーパー向けチルド飲料において、プライベートブランド・ナショナルブランドともに、商品展開の幅を広げることで、売上高の拡大に努めました。また、ドリップコーヒーやインスタントコーヒーなど、通信販売や量販店での販売を拡大、新たな商品の開発・販売を展開することで販売強化に努め、引き続き業容拡大に邁進しました。

以上の結果、ドトールコーヒーグループにおける売上高は217億30百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント利益は13億1百万円（前年同期比15.5%増）となりました。

(その他)

その他セグメントにおいては、主に国内及び海外における外食事業に係る小売及び卸売に関する事業となります。売上高は17億3百万円（前年同期比5.5%減、セグメント利益は3億29百万円（前年同期比21.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金の増加等により1,308億4百万円と前連結会計年度末と比べ30億16百万円の増加となりました。負債は、支払手形及び買掛金の増加等により298億14百万円と前連結会計年度末と比べ15億円の増加となりました。純資産は、剰余金の増加等により1,009億90百万円となり前連結会計年度末と比べ15億16百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今期の見通しにつきましては、新型コロナウイルスの影響がなくなり、業績は回復基調にあります。しかしながら、世界的な物価の高騰に歯止めがかかっていない中、円安の進行も相まって、原材料価格をはじめ、水道光熱費や物流費、さらに人件費に至るまで、さまざまなコストの上昇が業績に大きな影響を与える状況となっており、外食産業を取り巻く環境は、厳しい状況が続くものと想定されます。

当第一四半期累計期間においては、当初計画を上回る順調な推移を示しておりますが、不透明な要素が多々あることから、現時点における通期の連結業績見通しにつきましては、2024年4月12日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,796	35,810
受取手形及び売掛金	6,326	7,579
商品及び製品	3,437	3,903
仕掛品	134	167
原材料及び貯蔵品	1,655	1,393
その他	7,184	8,553
貸倒引当金	△69	△83
流動資産合計	54,464	57,322
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,494	21,803
機械装置及び運搬具（純額）	1,133	1,103
土地	21,145	21,208
リース資産（純額）	3,233	3,231
その他（純額）	1,713	1,749
有形固定資産合計	48,720	49,096
無形固定資産	1,012	952
投資その他の資産		
投資有価証券	910	978
繰延税金資産	1,305	1,301
敷金及び保証金	19,972	19,922
退職給付に係る資産	35	35
その他	1,366	1,196
投資その他の資産合計	23,590	23,433
固定資産合計	73,323	73,482
資産合計	127,788	130,804

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,768	8,309
短期借入金	470	470
1年内返済予定の長期借入金	93	126
未払法人税等	1,738	949
賞与引当金	1,331	664
役員賞与引当金	53	18
株主優待引当金	153	-
その他	8,802	10,224
流動負債合計	19,410	20,762
固定負債		
長期借入金	139	177
リース債務	1,693	1,713
退職給付に係る負債	2,318	2,277
資産除去債務	2,357	2,379
その他	2,395	2,504
固定負債合計	8,903	9,051
負債合計	28,314	29,814
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	16,642	16,642
利益剰余金	84,891	86,394
自己株式	△3,431	△3,431
株主資本合計	99,102	100,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	249	302
繰延ヘッジ損益	365	378
為替換算調整勘定	△565	△650
退職給付に係る調整累計額	2	33
その他の包括利益累計額合計	52	63
非支配株主持分	318	321
純資産合計	99,474	100,990
負債純資産合計	127,788	130,804

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
売上高	35,176	36,906
売上原価	14,227	14,357
売上総利益	20,949	22,549
販売費及び一般管理費	18,782	19,567
営業利益	2,166	2,981
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	0	0
不動産賃貸料	23	24
為替差益	63	91
その他	22	21
営業外収益合計	113	141
営業外費用		
支払利息	4	5
不動産賃貸費用	13	11
持分法による投資損失	5	5
その他	1	0
営業外費用合計	24	23
経常利益	2,255	3,100
特別利益		
固定資産売却益	0	0
退店補償金収入	509	243
特別利益合計	510	244
特別損失		
固定資産除却損	10	22
減損損失	55	29
特別損失合計	66	51
税金等調整前四半期純利益	2,699	3,293
法人税等	672	904
四半期純利益	2,026	2,389
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,014	2,379



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	2,026	2,389
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	52
繰延ヘッジ損益	89	12
為替換算調整勘定	△60	△85
退職給付に係る調整額	9	30
その他の包括利益合計	24	10
四半期包括利益	2,051	2,399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,039	2,389
非支配株主に係る四半期包括利益	11	10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社を株式会社とする当社グループは、2つの中核事業会社を基礎としたセグメントで構成されており「日本レストランシステムグループ」、「ドトールコーヒーグループ」、「その他」を事業セグメントとしております。

「日本レストランシステムグループ」は、主に直営店におけるレストランチェーンを経営しており、食材の仕入、製造及び販売までを事業活動としております。

「ドトールコーヒーグループ」は、主に直営店及びフランチャイズシステムによるコーヒーチェーンの経営をしており、コーヒー豆の仕入、焙煎加工、直営店舗における販売、フランチャイズ店舗への卸売りやロイヤリティ等の収入、また、コンビニエンスストア等へのコーヒー製品の販売を事業活動として展開しております。

「その他」は、主に国内及び海外における外食事業に係る小売及び卸売に関する事業活動としております。

II 前第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本レストラン システムグルー プ	ドトールコーヒー グループ	その他	計		
売上高						
小売	12,405	8,611	1,386	22,403	-	22,403
卸売	84	11,645	416	12,145	-	12,145
その他	15	611	-	627	-	627
顧客との契約から生じる 収益	12,505	20,868	1,802	35,176	-	35,176
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	12,505	20,868	1,802	35,176	-	35,176
セグメント間の内部 売上高又は振替高	474	164	1,206	1,846	△1,846	-
計	12,980	21,032	3,009	37,022	△1,846	35,176
セグメント利益	753	1,126	271	2,151	14	2,166

(注) 1. セグメント利益の調整額14百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用174百万円及びセグメント間取引消去188百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で20百万円、「ドトールコーヒーグループ」で31百万円、「その他」で3百万円であります。

Ⅲ 当第1四半期連結累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本レストラン システムグルー プ	ドトールコーヒー グループ	その他	計		
売上高						
小売	13,343	9,628	1,350	24,321	-	24,321
卸売	113	11,506	352	11,973	-	11,973
その他	15	595	-	611	-	611
顧客との契約から生じる 収益	13,472	21,730	1,703	36,906	-	36,906
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	13,472	21,730	1,703	36,906	-	36,906
セグメント間の内部 売上高又は振替高	423	174	1,294	1,891	△1,891	-
計	13,896	21,904	2,997	38,798	△1,891	36,906
セグメント利益	1,350	1,301	329	2,980	0	2,981

(注) 1. セグメント利益の調整額0百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用194百万円及びセグメント間取引消去194百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で13百万円、「ドトールコーヒーグループ」で15百万円、「その他」で1百万円であります。